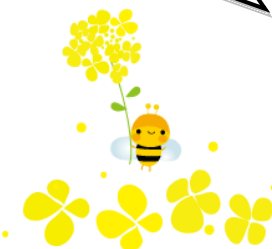


おしえて



わん[🐾]にゃん通信



2020/6/18 No.18

今回は前回から引き続き、「普段から出来る災害時の備え」その2をお伝えします。持ち物や身につける物から、普段の行動に視点を変えていきます。

移動にならす



- ・ケージ等に馴らす：避難所ではほとんどケージの用意が無いので、持参したケージやキャリーに入ったままで待機をする必要があります。したがって、ケージ等に入ることが難しいと避難所に受け入れられない場合があります。

動物も人と同じで慣れない場所では自分の居場所がある方が安心します。ケージは安心できる場所と覚えてもらうとよいでしょう。

「ケージ＝病院に行く」といったように、苦手になっている子が多いのでケージ等を動物が一番長くいる場所に置いて、ケージの存在に慣れてもらいましょう。

ケージの中でおやつやフードを与えることや、ケージの扉を開けたままで好きに出入りできるようにする方法も効果的です。



- ・動きや場所に馴らす：ケージやキャリーに入るようになったら扉を閉めて持ち上げ、数歩歩いたら扉をあけておやつをあげて、動きに馴らします。車移動や知らない場所に馴れることも大事なので、馴れてきたら車に乗せてドライブや（車酔いしないよう走行距離も少しずつ増やして下さい）キャリーに入れたままお散歩もいいと思います。避難の練習をすることが一緒に旅行に行ける練習にもなります。ケージ等が安心する場所になり、飼い主さんがいればどこでもリラックス出来るようになるのが理想ですね。



- ・ハーネス等に馴らす：リードやハーネス（胴輪）をつけられると、避難生活中の気分転換に散歩に連れて行くことが出来ます。ねこちゃんもハーネスをつけられると、逃げられずにお散歩が出来ます。ねこちゃんは首輪だと高い所に登った時に、首が吊られる可能性があるためハーネスの方が危険性は少ないです。



社会性を身につける



- ・ 人馴れしている：避難所は人の密度が高くなるので、家族以外の方が苦手な子はストレスがよりかかりやすくなります。

馴れさせる練習は少しずつ進めて下さい。怖がって余計に人嫌いになったり、驚いた拍子に、相手を噛んだり、引っ掻かれるかもしれません。

始めは十分距離をとって、家族が抱っこなどしたままなど、一番安心できる体勢からで構いません。ご褒美におやつを活用してみてください。

ねこちゃんも、家に来るお客さんに会わせてみたり、おやつを貰ったり、撫でてもらう機会を作るといいと思います。

- ・ 全身を触らせる：全身のどこの部分を触っても嫌がらないようになると、飼い主さんがいない時でも保護をしてもらいやすくなります。



特にわんちゃんは、誰でも首輪がつけられるように首回りを触らせてくれることが重要です。

- ・ ご近所にも理解される：地域での避難訓練など、動物と一緒に参加出来るようなイベントには積極的に参加すると知り合いが増え、理解者をつくることに繋がります。避難所では動物も普段と異なる環境の不安から、吠えたり、気が立ってしまったりします。

そういった時にも「近所の〇〇ちゃんが吠えているけれど、普段は良い子だね」と、理解してもらいやすくなります。

飼い主さんから離れて迷子になった時も、情報提供など発見の手助けをしてくれるかもしれません。

イベントに参加出来なくても、お散歩の時の挨拶も代わりになりますね。



動物の避難は、人でいう災害弱者と同じだと考えられます。避難を始めるかどうか、早めの決断と早めの避難が必要になります。

前回お伝えした持ち物も沢山ありますが、全てを抱えていくのも避難を遅らせる原因になるので、何がその子にとって必要なのか、持ち出す物の優先順位（飲んでいるお薬や療法食等）はペットの性格や生活を一番知っている飼い主さんの判断が不可欠になります。

ペットにとっては飼い主さんが一番の頼りですが、災害時に冷静な行動ができる方はほとんどいません。人の事で手一杯になっても仕方の無いことです。なので、ペットの避難は尚更普段からの備えが重要だと思います。

環境省からも「人とペットの災害対策ガイドライン」が配布されているので（環境省のホームページからご覧いただけて、ダウンロードが可能ですが）、参考にしてみてください。